R7 楡木小学校　学校通信
No.２４
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年１０月１７日
文責　余宮

高い気温が続いていますが、風景は秋の香りが。落葉樹に色づきがみられるようになってきたような気がします。

準備された心に…

先週はノーベルウィーク。ノーベル賞の各賞が順次発表される期間でしたね（これに、12 月 10 日の授業式に向けてスウェーデンストックホルムで開催される一連の祝賀行事の期間も合わせることもあるようです)。もちろん縁遠い賞ではありますが、毎年血沸き肉躍る思いがします。何よりも、人の知がこれほどのイノベーションを起こし得るということに、感動を覚えてしまいます。

その初日、ノーベル化学賞を北川進京大特別教授が受賞されました。日本人として大変光栄で誇らしい気持ちにさせていただきました。

その際の北川教授が「子どもたちに伝えたい言葉」として述べられた言葉が、また素晴らしい。下に、引用させていただきます。

細菌学の父であるルイ・パスツール※が『幸運は準備された心にのみ宿る』と、そういう名言を残しています。それは何か。私の流れをみたときに、いい先生に恵まれて、いい友達に、そして学会でのいろんな付き合いに。それは実は準備された心なんです。ある日突然宝くじを引いて当たるものじゃない。自分の育っていく過程でいろんな経験をするんですけれど、それを大切にしていくとそれが将来花開く、そう言いたいですね。

本当に、そう思います。華々しい賞、それは結果として確かに華々しい。しかし、そこに至る過程には、凡人が想像を絶する苦労や挫折があったことでしょう。それを粘り強く克服し、人モノこととの出会いと対話を大切に重ねる心の姿勢に、私は胸打たれます。

特に、「突然宝くじを引いて当たったわけじゃない」という言葉に、学びの本質があるような気がします。一度しかない自分の経験を大切にし、意味付けし、他者と協働して進むべき道を見定める。もしかしたら、間違いではないだろうかと不安や怖れを感じることもあろうし、あ～間違ったと失敗を糧に変化を余儀なくされることも。でも、道はあると信じて進むその様こそが、準備の意味だと、私は北川教授の言葉を受け止めました。

今日も楡木の朝は、たくさんの音で彩られています。来る 10 月 31 日の学習発表会に向けた練習なのでしょう。最初はうまくいかなかったり、自分の思う楽器担当にならなかったりと様々な課題と向き合い、練習を重ねるその個性的な音たちは、本当に清々しく響きます。こうやって、我が楡木っ子の「準備」は着々と重なっているのだろうと、また今日も心が暑くなります。まさに、学習発表会当日の華々しく素晴らしい表現の前にある、一人ひとりの「準備」が整いつつあります。一人ひとりとは書きましたが、それは決して独りよがりではなく、「みんなで『なりたい自分になる』」彩鮮やかな探究人の姿です。いろんな弱さをみんなでケアし合いながら、たし算以上の経験を重ねていく子どもたちの「準備」の過程にも、ぜひお家の方からのエールを送っていただけるならば、これ以上の幸せはありません。

※ルイ・パスツールは、フランスの生化学者・細菌学者。「科学には国境はないが、科学者には祖国がある」という言葉で知られる。王立協会外国人会員。ロベルト・コッホと共に「**近代細菌学の開祖**」とされる。
参照：ウィキペディア